

高槻 まちかど遺産 H25-17



東岡宿の西門跡

富田北東部は、戦国から江戸時代にかけて「東岡宿^{ひがしおかしゆく}」という町場で、周囲は土塁と堀・筒井池が廻り、北・南・西の主要な出入口に門が構えられました。

延宝年間(1673～80)の絵図では、40m東の清蓮寺門前に描かれていますが、享保年間(1716～35)とみられる「富田東岡宿絵図」には、水路(五社の水)すぐ脇の当地に描かれており、時期によって位置が異なっていた可能性も考えられます。



「富田東岡宿絵図」(部分)江戸時代 個人蔵

平成 26 年 3 月 高槻市教育委員会

東岡宿の西門跡

富田北東部は、戦国から江戸時代にかけて「東岡宿(ひがしおかしゆく)」という町場で、周囲は土塁と堀・筒井池が廻り、北・南・西の主要な出入口に門が構えられました。

延宝年間(1673～80)の絵図では、40m東の清蓮寺前に描かれていますが、享保年間(1716～35)とみられる「富田東岡宿絵図」には、水路(五社の水)すぐ脇の当地に描かれており、時期によって位置が異なった可能性も考えられます。

平成 26 年 3 月 高槻市教育委員会

清蓮寺

江戸前期に隆盛を極めた富田酒の蔵元、紺屋の祖である清水利重によって天正12年(1584年)に建立されました。清水家の菩提寺(ぼたいじ)でもあり、その一族で江戸中期の漢詩人、入江若水もここに眠っています。

いつ頃からは不明ですが、清蓮寺正門の石段下脇の“夜泣き地蔵尊”を毎年8月23日から25日頃の地蔵盆時には、昭和30年頃まで清蓮寺境内から石段下の道路まで夜店が並び、子供連れの参拝者も多く地域全体が活発でにぎやかで、六斎念仏おどり、数珠くりなどが行われ夜遅くまで賑やかでした。

最近、地蔵は寺の預かりとなり、お店は出ませんが地蔵盆祭りは盛大です。